

2022年度 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果



事業所向け放課後等デイサービス自己評価の2022年度の結果を公表します。
放課後等デイサービスガイドラインに沿ってより良い支援を行っていきけるよう、
自己評価結果や保護者等アンケート結果をもとに、支援の資質向上に努めていきます。
これからもスポーツひろばプレイスをどうぞよろしくお願ひいたします。

スポーツひろばプレイス天神橋教室

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		法令を遵守しています。現状を固定化することなくより良いレイアウトを検討しています。
	2	職員の配置数は適切である	○		法令の配置数に加えて、常勤換算で児童指導員等を1名以上配置しています。教員免許保有者など専門性の高い職員の配置に努めています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		事業所は2階にあります。ビルにエレベーターが設置されていますので、事業所までの経路はバリアフリーです。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		すべての職員が参画し、定期的にミーティングを行い目標の共有や検証、振り返りをしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1回程度アンケートを実施し、全職員で現状や課題点の把握、業務改善につなげています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公表しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価は現在実施していませんが、実施している他事業所と情報交換を行うなどしながら検討しています。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		3ヶ月の初任者研修を行っています。また年間計画を立て、定期的に研修・授業研究を行ったり外部研修に参加したりしています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		面談を行ったうえで計画を作成しています。また、発達検査の結果や就学支援シートなどを提出してもらい、分析に役立てたりサービス計画に反映したりしています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラムの立案はチームで行い、また固定化しないよう工夫しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月ごとに内容確認・模擬授業を行い、検討しながらプログラムを組んでいます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		一人ひとりの児童に対し、長期休暇などで利用時間が変わる際は改めてすり合わせを行うなどしています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童の状況に合わせて、個別・集団活動を検討し計画を作成しています。また目標に合わせて集団の規模を変えプログラムを行っています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日必ず、支援開始前と終了後に職員間で打ち合わせを行い、児童や支援内容の情報共有などをしています。事前シミュレーションを行い、質の高い支援が提供できるようにしています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		必ず記録をとり職員間で共有し、より良い支援につなげるよう努めています。月、半年、年間などの振り返りにも行っています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回以上モニタリングを行い、計画の見直しをしています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		柔軟に組み合わせ合わせて支援を行うよう努めています。季節に応じた題材を用いるなどの工夫もしています。	
20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童の状況に精通した職員が必ず参画しています。また、事業所内でも会議を行い情報共有をしています。	
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		必要に応じて適宜行っています。また、個別計画や通知表などを用い、学校での様子を把握しています。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○	医療的ケアが必要な児童の場合には、入会前に保護者や主治医等と話し合い、受け入れが可能か検討をします。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	必要・依頼に応じて、情報を共有・提供します。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	大阪府、大阪市の研修等に積極的に参加しています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	今のところ交流の機会はありませんが、利用児童や保護者、地域からの要望などに応じて検討していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	協議会等へ参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	事業所での様子は適宜伝え、必要があれば見学や面談も行っています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	必要に応じて、個別に支援を行っています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	初回面談時に説明を行っています。常に掲示し、必要に応じて何度でも説明を行います。変更があった際には変更内容を交付しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	面談や電話、LINEなどで相談に応じたり、活動の様子をご見学していただきながら助言を行ったりしています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	現在は保護者会等は行っていませんが、希望調査を行うなどして、必要に応じて検討していきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情窓口を設け、周知しています。苦情があった場合は苦情解決の流れに沿って迅速に対応します。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	月に1回、活動の様子や内容についての会報を発行し、保護者に交付しています。
	35	個人情報に十分注意している	○	個人情報は鍵付き書庫に保管しています。また職員に定期的に注意喚起し十分注意しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	随時、伝わりやすい方法で行っています。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	保護者の要望等に配慮し、現在招待等は行っていません。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	マニュアルを策定し、研修を行っています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に2回、避難訓練の実施を予定しています。2022年度は5月と2月に実施しました。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	虐待防止の研修会等に参加し、防止に努めています。また、掲示物等でも周知しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	初回面談時に説明し、必要に応じて面談を行い個別支援計画等にも記載しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アレルギーの有無を把握し、アレルギーのある児童については家庭と連携し対応しています。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハット事例集を作成して共有し、事故防止に努めています。	